

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

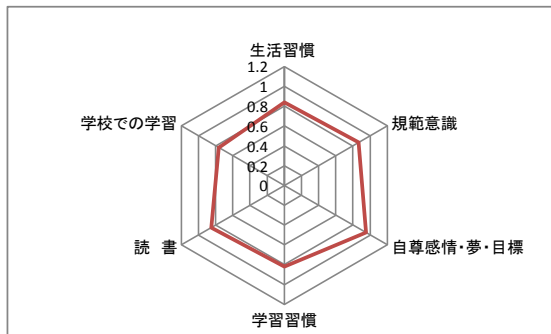
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが言語知識理解の力は定着してきた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文章の構成や展開について自分の考えを持つ問題、辞書を活用し感じが表している意味を正しく捉える問題は正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っているが、昨年度より5ポイント上昇している。 ・文章を読み取り内容を理解する力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題は無回答率が高い。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが計算問題、立体図形の問題など空間における図形の理解が深まった。 ・グラフや表からの問題理解に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	分数、小数、正の数・負の数の計算、不等式の問題、見取図から角の大きさを求める問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	数量関係を式に表すこと、グラフを読み取り一次関数の関係を式に表す問題は無回答率が高い。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが与えられた情報から必要な情報を選択し問題解決に取り組む力がついてきた。 ・数学的に解釈し説明する力が不十分で課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	与えられた式から問題の解決方法を数学的に説明したり、筋道を立てて証明する問題の無回答率が高い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
毎日同じ時間に寝ている生徒は全国平均に比べて低くゲームやテレビ等に費やす時間が長く家庭で全く学習時間を確保していない者が多い。規範意識は高く将来に対する夢や自信を持っている生徒の割合がやや低い。文章を書いたり話し合い活動を通じて学習に取り組む大切さを理解し、学習内容を振り返り定着する活動が求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業の中で必ず目標(めあて・まとめ)を提示し、課題を整理し話し合い、まとめ発表のできる機会を持ち、自ら文章にまとめたり説明を行うことで内容を振り返り定着できるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

テレビ・ゲーム等の時間を少なくし、読書の習慣をつけさせるため生活ノート(吉田ノート)を活用し自学自習、家庭学習の時間が定着するよう取り組みを継続する。またそれぞれの将来への希望や夢を叶えるための目標設定を行い行動に結びつけていくよう指導する。その取り組みを学校通信等を利用し保護者に